



賑わい交流拠点施設イメージ図

■ **窓口サービスの充実**
 マイナナンバーカードを利用した住民票等のコンビニ交付サービス事業により利便性向上を図ります。また、来庁者には分かりやすく親身な対応を心がけサービス満足度の向上を目指します。

■ **まちを未来へとつなぐ、きりっと丁寧な仕事を
 する役場があるまち**

施設オープンから29年が経過し老朽化が進んでいる総合体育館については、施設修繕を年度計画により実施し、設備の安全管理に努めます。

「おおがわら千本桜スポーツパーク」内に、パークゴルフ場をオープンします。

■ **スポーツ振興**
 スポーツの力をまちづくりに活用する「スポーツまちづくり推進課」を、町長部局に新設し、Well-beingなまちづくりを推進します。

るとともに、郷土に愛着をもっていた「親子史跡めぐり」事業を展開します。



「千本桜を千年先へ」植樹100年目を迎える白石川堤の一目千本桜

■ **都市公園**
 遊具点検や樹木剪定等を行うとともに、「自走式草刈り機」の貸し出しを行うなど、公園サポーターが活動しやすい環境づくりを図ります。

■ **道路排水溝整備**
 町道中島荒屋敷上谷線の側溝有蓋化を進めるとともに、グリーンベルトを設置し、歩行者の安全確保を図ります。

■ **雨水整備**
 鷺沼排水区公共下水道雨水整備事業における5号調整池工事の完成を目指し、浸水被害の解消に努めます。

■ **ブランド化とプロモーションで、誰もが
 はたらくと働けるまち**

■ **農業**
 農地の集積と集約化などを推進し、農地の効率的利用や耕作

放棄地の解消につなげます。
 将来の農業を担う人材確保のため、新規就農者経営発展支援事業などを活用して経営の安定化を支援します。

■ **工業**
 さらなる企業誘致の実現と既存企業の規模拡大を促進するため、新たな工業団地整備に必要な調査など、事業化に向けて具体的に検討します。

■ **観光物産**
 高山開治郎氏による白石川堤への桜の植樹から100年目を迎える本年は、「千本桜を千年先へ」をコンセプトとする観光キャンペーンを展開し、桜まつりや夏まつり等についても植樹100周年記念事業と位置づけ、特別イベント等を企画します。

■ **樹木医開発による「大河原紅桜」について、町名を冠としたオンラインワンの桜として情報発信し、「一目千本桜のまちおおがわら」をPRします。**

■ **本町の新たな魅力となるサイクリング・ウォーキングロードを活用した、スポーツを通じた観光に取り組みます。**

■ **ふるさと寄附金**
 前年度同様、本町を応援したい思いを募るとともに、寄附金を本町らしいまちづくりに活用します。

■ **職員体制**
 定年制延長がスタートし、行政組織も新しい体制となることから、職員の資質向上や意識改革を推進し、主体的に行動できる職員育成に努めます。

■ **行政経営と進行管理**
 第6次長期総合計画の中間見直しとして、令和6年度から11年度までの後期基本計画を策定します。

■ **自治体デジタル・トランスフォーメーション(DX)**
 「大河原町DX全体方針」に基づき、行政手続オンライン化に着手します。

■ **各窓口業務に情報通信技術を取り入れ、「書かせない」「待たせない」「来庁しない」窓口の実現に向けての取り組みを行い、住民サービスの質と利便性の向上、職員の事務負担の軽減を図ります。**

志たくましく、
 おおらかに
 学び続けられるまち

■ **学校教育**
 小学校における「教科担任制」の拡充に努めるほか、中学校では、部活動指導員を増員配置し、教員の負担軽減を図ります。
 要保護・準要保護児童生徒世帯への支援策として、オンライン学習通信費を追加します。

■ **学校施設の維持管理**
 大河原中学校の校舎裏に4面のテニスコートの設置や、グラウンド改修としてソフトボールバックネットの更新を行います。

■ **金ヶ瀬中学校の特別教室にエアコンを設置します。**

■ **家庭・地域活動支援**
 中学校の部活動地域移行について、協議会を設置し、子供たちにとってより良い環境が提供できるように努めます。

■ **文化財の保護と活用**
 民俗資料収蔵品の企画展などを通して、学ぶ機会の充実を図ります。

【おわりに】

昨年、スポーツ庁から「スポーツ・健康まちづくり優良自治体表彰」を本町が受賞した際に、スポーツによるWell-beingなまちづくりの推進が評価のポイントであったと受け止めております。
 Well-beingとは「心身ともに健康で幸福な状態を継続すること」を指しますが、まさに住民が主役です。と元々「おおがわらまち」を将来像としている第6次長期総合計画「ひと・まち・桜が咲きほこる先進のまち」につながるものと受け止めております。
 今後においてもWell-beingなまちづくりを掲げ、コロナ禍の教訓も活かしながら、社会的包摂の推進や誰一人取り残さない視点も大切に、人と人、人と地域がつながり支え合う「地域共生社会」の実現に邁進したいと考えております。「地域共生社会」の実現につながる「認めあい・支えあい・活かしあう」本町の掲げる基本理念を再確認し、本町が持つ特徴である「中心性」「拠点性」「利便性」を存分に活かしながら、本町の限らない発展に全力投球してまいります。